

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第241号
(6月)
2017

乳幼児のこころの育ち

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

四月に新入園児としてお預かりした三歳未満の子ども達は、当初お母さんとの別れがつかつたり、生活環境の変化もありイヤイヤの自己主張の姿があります。受け入れ時の何時もの情景ながら保育者のおんぶにだつこのスキンシップ・マザリング状態が、集団生活環境に戸惑い緊張する通過儀礼だと共感しつつも心が痛みます。

そのような子ども達も一ヶ月もすると次第に慣れ、保育者との基本的信頼感や安心感も生まれるようになります。保育者にゆつたりと抱かれる乳児が、武骨な私などと不意に顔を合わせても泣かずにっこり笑顔を返してく

れる様子にホッとします。今回は、主に三歳未満の子ども達の「こころの育ち」について考えたいと思います。

近年、乳幼児精神医学研究が急激に発達し、私どもの教育・保育専門職にとって、多くの示唆やヒントを与えられ、日々の仕事にそれを生かす機会に恵まれております。その動向は、こころの育ちはやはり〇歳児から三歳児までに重点が置かれていて「三つ子の魂百まで」は、私たちに子どもの育ちの道しるべとなっております。

特に、上記のような〇歳児、一歳児の入園当初の状況ですが、ボウルビイの愛着理論の特徴から保育者と乳幼児とのアタッチメント形成、心の育ちとして良く見られ

る光景です。愛着行動は、身近な大人との情緒的な強い結びつきを持つことで、心と体の安定、安心を得ることです。

通常乳幼児はストレスを感じられる状況で、愛着獲得行動を起こすと言われます。発信行動（泣いたりぐずったり）、接近行動（自らに注意を引こうと接近する）、定位行動（愛着を築いた相手を確認し安心する）、このように人として本能的に表す日々の行動を通して、保育者としての確に対応し言葉はなくても次第に自分を守られている、愛されていることを体験させ心の育ちとして安心感を獲得します。

この時に重要なことは、本能的に表す愛着獲得行動に周囲の大人が、しっかりと応えてくれるか応えないかが大事で、全く応えてもらえず無視された状態では、愛着心が育たず形成されにくいことや、この時期が育ちの臨界期であることを注視すべきだと思います。

また、ボウルビイの愛着形成の発達段階は4期に分け説明されますが、4期目の三歳頃には、自ら信頼する母親や保育者が心のよりどころとして確認できて、そばを

離れていても必ず迎えに来てくれる、何かあってもいつでも暖かく迎えてくれる安全基地を体験することが重要であり、そのことを意識して丁寧にかかわることが心の育ちを促進します。

それにしても乳幼児の健全な成長の源は、親御さん、特に母親・母子間の共感能力、相互作用が大きいこと、そのためには日常的に保育士がお母さんとのコミュニケーションを大切に、目の前の子どもといかに過ごし、子どもの育ちにどのように寄り添えるかを大事にしながら保護者の皆様と共に「こころの育ち」を見守ることが重要だと思っております。



せんせい、みててね～

今年度の運営の重点

園長 坂本 信行

新制度に移行して三年目を迎えた当園の今年度の運営の重点は次の四点です。

①個に応じた支援に努める

子どもの発達には標準的なものはありませんが、乳幼児の場合はその発達の幅が大きく、また月齢によっても成長の差があります。したがって、同じクラスでも一人ひとりの成長の度合いは異なります。それぞれの育ち等に配慮した支援に努めてまいります。

また、教育・保育要領が新しく改訂になり、来年度から実施になります。「主体的な学び」の推進や「遊びが学び」の方向性は一層重視されていますが、その主旨が達成されるように研修を深め、実践に活かしてまいります。

②集団生活の中で生きる力や喜びが広がるような環境づくりに努める

子どもの「これをやってみよう」という課題に出来るだけこたえられるような環境づくりに努めます。そのためには、先ず保育教諭自らが豊かな体験を持ち、適切な支援ができるように環境構成の充実に努めます。

また、朝7時から夜7時までの開所時間です。担当者の「報告・連絡・相談」等を確実に行い、更に、保育部、幼稚部、家庭部の連携を深め、一体的な計画、実施、評価、改善に努めます。

③保健指導や食育指導の推進

食育指導を含めた健康指導の充実です。昨年度新制度に対応して、二号児の給食提供を図るために県及び市当局からの支援をいただき給食調理室の改修ができ、一月よりその運用が始まりました。また、今年度は養護教諭の採用もでき、栄養士、看護士、養護教諭それぞれの専門性を生かし、指導計画を見直し、改善を図り、子ども一人ひとりの健康状態に配慮した食育

指導の推進と給食提供に努めます。

④百周年事業の推進

今年度は明治四十年タツピング夫人が盛岡保育会を引き継ぎ盛岡幼稚園を開設してから創立百十年を迎えました。歴史を振り返り、建学の精神を学ぶとともに、新制度に対応する運営に努めます。

具体的には、十月に式典と祝賀会を計画し、それに向け記念誌を発行（百周年以降のものを中心）する予定です。

以上、四点の経営の重点を述べましたが、「常に喜ぶべし」の園訓のもと、保護者や関係機関のご理解とご支援をいただきながら推進していく所存です。また、ホームページでも情報を発信しておりますので、園に対するご理解を深めていただければ幸いです。

平成 29 年度盛岡幼稚園運営の重点目標と具体目標

① 乳幼児一人ひとりが、より豊かに遊び、学ぶ生活を過ごせるように援助する

○乳幼児一人ひとりの発達等に配慮し、個に応じた支援に努める
○遊びが学びになるよう、研修の充実を図り実践化に努める

② 集団生活の中で生きる力、喜びの広がりがより育つ環境づくりに配慮する

○求められている教育・保育を目指す環境構成の充実に努める
○保育部、幼稚部、家庭部の連携を深め、一体的な計画、実施、評価、改善に努める

③ 保健指導や食育指導の見直しを図り、乳幼児の健康指導の充実を図る

○保健指導や食育指導の充実に努める

④ 創立以来の教育理念を尊重し、新制度に対応する運営に努める

○建学の精神に学び、時代に対応する園風を創造する
○家庭との連携を深め、地域子ども・子育て支援事業の充実を図る
○110 周年記念事業を推進する

子どもの生活・遊び

思い出さばいの一年に

Aクラス 竹岡 真美

4月、「またよろしくね」と声を掛けながら一人ひとりに水色バッジを付けてあげてから3か月近くが経ちました。みんなで誘い合って遊び出す姿、いろいろな行事や活動に意欲的に取り組む姿、話し合いの時に自分なりに考えて意見を出そうとする姿など、様々な場面でAクラスらしさを感じる毎日です。

Aクラスみんなは、4月からこれまで県や市のイベントに3回参加しました。その度に私は内心ドキドキしていましたが、子ども達はたくさんのお客さんやテレビカメラを前にしてもいつも通り元気いっぱいダンスを踊り、大きな拍手をもらっていました。こうして幼稚園の代表としていろいろな場で活躍できたことが自信となり、これから生きてくると思えます。

Aクラスの毎日はあつという



緑花まつりで元気にダンス♪

間に過ぎていきますが、この一年は幼稚園生活最後の一年。そう考えると一日一日を大切に過ごしていかなければと思います。子ども達にとって、何より楽しい思い出いっぱい的一年になるように、そして、仲間と共に様々な経験をすることで心も体も大きく成長し、自信を持って幼稚園を旅立ってほしいように、精一杯支えていきたいと思っています。

元気いっぱいBクラス

Bクラス 舟越 恵子

新しいお友達8名を迎え、34名でのスタートから、3カ月経ったBクラスの子ども達。「おはようございます!」と大きな声で登園し、元気いっぱいに過ごしています。

4月は、折り紙やブロック遊びが中心でしたが、5月の親子遠足後からは、急に空き箱を使用しての動物作りが始まり、広告用紙での棒作り、ドリル作り等、作って満足する世界から、作ったもので友達と一緒に楽しく遊ぶ世界へと遊びが広がってきました。

また、「ホールに行つていい?」「お外行く?」と体を動かすことが大好きな子ども達。最近では、雲梯や枕木クライミング、登り棒、長縄等、色々なことに挑戦し、「できたよ!」とできるようになった喜びを感じたり、ルールのあるゲーム遊びも少しずつできるようになってきました。

しかし、友達と一緒に楽しく遊べるようになってきた反面、自分の思い通りにならなかったり、相手に気持ちが上手く伝わらなかったり…ケンカになってしまうこともありま

すが、それも成長の一過程として、子どもの気持ちを受け止め、じっくりと関わっていきたいと考えております。

これからも、様々な経験をしながら、心も体も大きく成長できるように見守っていきたいと思っています。

おんなじ♪おんなじ♪

C1クラス 田口 千聖

「みんなおんなじバッチの色だね。」と、クラスのバッチを見合わせながら仲良くなった入園式。4月はどちらのクラスからも聞かえてきた泣き声が、今では賑やかなおしゃべりに変わっています。

「せんせー、○○くん来たよ!」と、お友達の名前を覚えて、笑顔で声をかけるほほえましい光景が、毎朝のように見られるようになりました。一人ひとりのペースで園生活に慣れ、好きな遊び、好きな場所、好きな友達を見つけて楽しんでいるところです。

5月には親子で動物公園に遠足へ出かけました。楽しい経験をした子ども達は、早速幼稚園でも遠足ごっこ♪の子もままごとのごちそうをカバンいっぱい詰め込

み、水筒を持って廊下におでかけ。ペーパー芯の双眼鏡をおそろいで持ち歩き、「おんなじだね!」とニツコリ目を合わせていました。

友達や保育者と一緒に踊ったり、なりきったりすることが楽しくなる時期。同じことをする、同じ物を持つことが嬉しいという気持ちを大切に、子ども達の育ちを支えていきたいと思っています。

新しい生活の中で:

いちごクラス 村松 千尋

新学期がスタートして三ヶ月が経ちました。新しい先生、新しい環境に「緊張しているなあ」と思っていたのも束の間。今では、好きな遊びを見つけて楽しむ姿、自分の気持ちを表す姿が見られるようになり、子ども達が心を開いて過ごしていることを嬉しく感じています。

いちごクラスの子ども達は遊びの名人で、絵本の中に登場するドーナツを見て「作ってみたい!」と、新聞紙を丸め、ドーナツ屋さんに变身!!この遊びを通して自分で作る面白さを知り、釣りごっこやレストランごっこなど、遊びをどんどん広げて、友だちや先生と一緒に楽しんでいきます。



さかな釣りごっこ

また、身の回りのことにも興味が出てきたようで、自分で靴を履いたり、おやつの際にコップを洗ったり。最近では、カラー帽子を自分で被る練習もしているのですが、試行錯誤しながら頑張る姿は微笑ましく、一人で出来た時は子どもの表情が輝く瞬間です。これから『やってみたい!』『一人で出来た!』の気持ちを受けとめ、見守っていききたいと思っています。

今は今でいい、幼稚園に

ふたば会会長 千葉 千佳子

現在小学生の長女はCクラスから、次女は0歳児から盛岡幼稚園にお世話になっており、私自身の職場も近いことから、園児たちが園庭で元気に遊ぶ様子やお友達同士で手を繋ぎ、楽しそうに散歩に出かける様子を見守ってきました。

長女の頃はまだ午後預かりが少なかった時代でしたが、ここ数年で二号保育が園児の多数を占め、ふたば会も、これまでのような活動を引き継いでいくには無理があると個人的に感じ、少しずつ変化が必要だと実感している所です。これまでと比べ、学年を越えて保護者同士が知り合い、交流する機会も減ってきています。

保護者側の負担もよく考え、園行事等を通し、保護者同士交流でき、今後の園の発展に繋がるよう検討して行きたいと考えています。昔の幼稚園の活動とは少し違うけど、今は今でいいね!と思えるような活動を展開していければと思っています。

今後共、色々な場面でのご協力よろしくお願いいたします。

編集後記

29年度がスタートし133名の子ども達一人ひとりが新しい環境に慣れ、その子らしさが見られるようになってきました。園内は元気な子ども達の声が響きわたっております。

今年度、盛岡幼稚園は創立百周年を迎えます。改めて長い歴史を紐解いてみる機会に恵まれました。園庭にあるコナラ、メイプル、レインボ、ハナミズキ等の記念樹一つひとつをとっても歴史を感じることが出来ます。何人もの卒業生を送りだし、また多くの方々に支えられたことでしょう。このことに感謝しながら百十年の重みをかみ締めていきたいと思っています。

そんな中、7月1日はふたばまつりがあります。バザーという名称からふたばまつりという形に変わりましたが、保護者の皆様のご協力を頂き開催できることは、一つの歴史の継承だと思っています。幼稚園をなつかしく訪ねて下さる方々との再会が楽しみです。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0002

盛岡市中央通一六―四七

TEL 六二二―二三〇一

理事長 坂本 洋